

5月度の観察記録

カテゴリ : 2018年

_MD_POSTEDON投稿者: [Zz.admin](#) 掲載日: 2018-5-13

2018年5月度の観察記録です。

```
Untitled Page      .auto-style1 {      text-align: left;      }      .auto-style2 {      text-align: right;      }      var gaJsHost = (("https:" == document.location.protocol) ? "https://ssl." : "http://www.");      document.write(unescape("%3Cscript src='" + gaJsHost + "google-analytics.com/ga.js' type='text/javascript'%3E%3C/script%3E"));      var pageTracker = _gat._getTracker("UA-3205823-1");      pageTracker._initData();      pageTracker._trackPageview();
```

平成30年5月13日(日)9:30~12:30 作成: 田畑恭子 監修: 瀧川正子

写真協力: 伊藤義人氏

参加者: 大人21名, 子ども4名 天気: 小雨のち大雨 集合時間を待たずに雨が降り出しました。それでも初参加の親子二組を迎え、遠くにウグイスのさえずりを聞きながらゆっくり歩く観察会となりました。途中、傘に当たる雨の音で話し声が聞き取りにくいほどの大雨になり、いつもより早めに切り上げました。

?里山の家での持ち込み観察項目: ホトトギスの葉についたルリタテハの幼虫(2匹), ニシキギについたキバラヘリカメムシ, ワカバグモ, メジロの巣, シャリンバイとタチシャリンバイ, センダン ?

10時過ぎに里山の家を出て、まずクワに発生したキジラミと、それを食べるハラグロオオテントウの幼虫を観察しました。近くにセンダンの花が咲いていました。





クワ ハラグロオオテントウ センダン 一人の参加者がチャパネアオカメムシとキイロナガツツ
ハムシを手に載せて紹介しました。そばのミカンの木に複数のアゲハの幼虫がついていて、一部は
ナガサキアゲハでした。近くに積んであったスホウチクにハイイロヤハズカミキリやカタツムリが
いました。ノイバラ、スイカズラが花を咲かせていました。



ナガサキアゲハ ハイイロヤハズカミキリ スイカズラ **種に穴が開いていたので、ノ**
コギリとなたを使って中を見てみることにしました。穴は台湾タケクマバチの親があげた穴で
、中では仕切りが作られて、エサの花粉団子と一緒に幼虫が1室につき1匹ずつ入っていました。親
が入っているものもありました。台湾タケクマバチは中国からの輸入竹材の中に入って移入し
たと考えられているようです。花粉団子に鼻を近づけると、ほんのりと香りました。近くに咲いて
いるセンダンの香りに似ていると言う参加者もいました。お昼に里山の家でこの花粉団子をなめて
みた参加者からは「無味」「ほんのり甘い」などの感想が出ました。



竹にあいた穴 台湾タケクマバチの幼虫とエサの花粉団子 台湾タケクマバチ
でシボグモ、ヒメタイコウチを見つけました。少し移動して、花盛りのイボタノキとアズノ実が
たくさんなっているのを観察しました。

同じ場所



ヒメタイコウチ イボタノキ アンズ ゾウムシに詳しい参加者がコナラの枝に**ゼミ**のいる
ロオトシブミの揺籃(ようらん)を紹介しました。親が中に卵を産み、孵化した幼虫は中の葉を食べて育ちます。その足元に**ヒルの仲間**と**ナナフシ**の幼生がいるのをこの日初参加の女の子がを見つけました。





ヒメクロオトシブミの揺籃 ヒルの仲間 ナナフシ
は種類が多くその場での同定は難しいとのことで宿題となりました。同じ木で小さな虫を見つけた参加者に尋ねられて見るとヨコバイの幼生でした。ヨコバイはセミの仲間と説明された参加者から、確かに顔がセミっぽいとの声が出ました。
つだけ見て戻ろうということになりましたが、その道すがら、ヤマコウバシ、シノブ、カナメモチ、ネジキを観察しました。ヤマコウバシは秋に枯れた葉が落ちないままなのが目につく冬の自然観察会の常連です。

ハバチの幼虫がいました。ハバチ

このあたりで雨が一層強まってきました。あとひと





ハバチの仲間の幼虫 ヨコバイの幼生 ヤマコウバシ





シノブ カナメモチ ネジキ みんな服を濡らしながらようやく**夕霧庄まひ**いまでたどりつきました。卵囊から孵化して間もない子グモがしばらく留まって過ごし、やがて天気の良い日に風に乗って運ばれていくとのことでした。すぐそばのコナラでは**オニグモ**も観察できました。里山の家では持ち帰った**オオイヌノフグリ**の4枚のはなびらのうち1枚が白いことを指して、連続テレビドラマの題名を模して「4分の3、青い」と紹介されました。





クモのまどい オニグモ(ヤマシロオニグモ?) オオイヌノフグリ 平和公園での観察項目：クワ、ナミテントウ、ハラグロオオテントウ、クワハムシ、チャバネアオカメムシ、キイロナガツツハムシ、キジラミ、ハイイロヤハズカミキリ、コフキゾウムシ、クサギカメムシ、ナミアゲハの幼虫、ナガサキアゲハの幼虫、ウズラカメムシ コイチャコガネ、タイワンタケクマバチ、タイワンタケクマバチの幼虫とその餌、ハチを捕獲したカニグモ、ニッポンマイマイ、イセノナミマイマイ、シボグモ、スイカズラ、ノイバラ、ヒメチコウチ、イボタノキ、アンズの実、ヒメクロオトシブミの揺籃、ヒルの仲間、ナナフシの幼生、ハバチの幼虫、ヨコバイの幼生、クモのまどい、オニグモ(ヤマシロオニグモ?)、オカダンゴムシ、ヤマコウバシ、シノブ、カナメモチ、ネジキ、ツチイナゴ、ザトウムシ、ヤマトカギバ、オオイヌノフグリ